

回	テーマ	著者名	書籍名	出版社名	出版年
列1	列2	列3	列4	列5	列6
第1回	社会の発展に法則はあるのか(Social Progress/ Evolution/ Development)	清水幾太郎編	『世界の名著36 コント スペンサー』	中央公論新社	1970
第1回	社会の発展に法則はあるのか(Social Progress/ Evolution/ Development)	佐藤寛	『開発援助の社会学』	世界思想社	2005
第1回	社会の発展に法則はあるのか(Social Progress/ Evolution/ Development)	村井久二	『コントとマルクス—「コント＝マルクス型発展モデル」の意義と限界』	日本評論社	2001
第1回	社会の発展に法則はあるのか(Social Progress/ Evolution/ Development)	北川隆吉	『有賀喜左衛門研究—社会学の思想・理論・方法』	東信堂	2000
第2回	ボランティアと社会企業家に境界はあるのか (Social Entrepreneur)	今一生	『社会起業家に学べ!』	アスキー新書	2008
第2回	ボランティアと社会企業家に境界はあるのか (Social Entrepreneur)	ジョン・ウッド	『マイクロソフトでは出会えなかった天職—僕はこうして社会起業家になった』	ランダムハウス講談社	2007
第2回	ボランティアと社会企業家に境界はあるのか (Social Entrepreneur)	金子郁容	『ボランティア—もうひとつの情報社会』	岩波新書	1992
第2回	ボランティアと社会企業家に境界はあるのか (Social Entrepreneur)	籠山京	『ボランタリー・アクション』	ドメス出版	1981
第3回	貧困者に配慮した企業は生き残れるのか(Social Business)	C・K・プラハラード	『ネクスト・マーケット —「貧困層」を「顧客」に変える次世代ビジネス戦略』	英治出版	2005
第3回	貧困者に配慮した企業は生き残れるのか(Social Business)	藤井俊彦、新谷大輔	『アジアのCSRと日本のCSR—持続可能な成長のために何をすべきか』	日技科連	2008
第3回	貧困者に配慮した企業は生き残れるのか(Social Business)	ポール・コリア—	『最底辺の10億人—最も貧しい国々のために本当になすべきことは何か?』	日経BP社	2008
第4回	貧者に優しいおカネはあるのか(Social Finance/ Investment)	菅正広	『マイクロファイナンスのすすめ—貧困・格差を変えるビジネスモデル』	東洋経済新報社	2008
第4回	貧者に優しいおカネはあるのか(Social Finance/ Investment)	田中優編	『おカネが変われば世界が変わる—市民が作るNPOバンク』	コモンズ	2008
第4回	貧者に優しいおカネはあるのか(Social Finance/ Investment)	麻島昭一	『無尽業の存立基盤とその変質』	国連大学人間と社	1983
第5回	貧者は対等に交換できるのか(Social/ Fair)	オックスファム	『貧富・公正貿易・NGO—WTOに挑む国際NGOオックスファムの挑戦』	新評論	2006
第5回	貧者は対等に交換できるのか(Social/ Fair)	FLO, IFAT, NEWS!,	『これでわかるフェアトレードハンドブック—世界を幸せにするしくみ』	合同出版	2008
第5回	貧者は対等に交換できるのか(Social/ Fair)	ピエトラ・リポリ	『あなたのTシャツはどこから来たのか—誰も書かなかったグローバリゼーション』	東洋経済新報社	2006
第6回	貧者に使える資本はあるのか(Social Capital)	佐藤寛編	『援助と社会関係資本』	アジア経済研究所	2002
第6回	貧者に使える資本はあるのか(Social Capital)	国際協力事業団	『ソーシャル・キャピタルと国際協力: 持続する成果を目指して(総論編)』		2002
第6回	貧者に使える資本はあるのか(Social Capital)	ナン・リン	『ソーシャル・キャピタル—社会構造と行為の理論』	ミネルヴァ書房	2008
第6回	貧者に使える資本はあるのか(Social Capital)	N・アポフ他	『農業開発における社会関係資本の役割—スリランカ、ガル・オヤ農民組織の生産性』	『のびゆく農業: 世界の農政』no.970, p	2006
第6回	貧者に使える資本はあるのか(Social Capital)	フランシス・フクヤ	『「信」なくば立たず—「歴史の終わり」後、何が繁栄の鍵を握るのか』	三笠書房	1996
第7回	どうすれば社会に変化が受け入れられるのか (Social Innovation/ Extension)	エベレット・ロジャーズ	『イノベーションの普及』	翔泳社	2007
第7回	どうすれば社会に変化が受け入れられるのか (Social Innovation/ Extension)	野沢慎司編	『リーディングスネットワーク論—家族・コミュニティ・社会関係資本』	勁草書房	2006
第7回	どうすれば社会に変化が受け入れられるのか (Social Innovation/ Extension)	浜田陽太郎監	『これからの普及活動をどうすすめるか』	農山漁村女性・生活活動支援協会	1987
第7回	どうすれば社会に変化が受け入れられるのか	水野正己、佐藤寛	『開発と農村—農村開発論再考』	アジア経済研究所	2008
第8回	私のもの、社会のもの、貧者のもの(Social and	宇沢弘文	『社会的共通資本』	岩波新書	2000
第8回	私のもの、社会のもの、貧者のもの(Social and	ユルゲン・ハー	『公共性の構造転換』	未来社	1973

回	テーマ	著者名	書籍名	出版社名	出版年
第8回	私のもの、社会のもの、貧者のもの(Social and	小松隆二	『公益学のすすめ』	慶應義塾大学出版	2000
第8回	私のもの、社会のもの、貧者のもの(Social and	福田耕治	『国際行政学—国際公益と国際公共政策』	有斐閣	2003
第9回	貧困は不正義か(Social Justice)	チャンドラン・クカ サス、フィリッピ・ペ ティット	『ロールズ—「正義論」とその批判者たち』	劉草書房	1996
第9回	貧困は不正義か(Social Justice)	若松良樹	『センの正義論—効用と権利の間で』	劉草書房	2003
第10回	社会的排除と貧困(Social Exclusion)	岩田正美	『社会的排除—参加の欠如、不確かな帰属』	有斐閣	2008
第10回	社会的排除と貧困(Social Exclusion)	アジット・S・バラ、 フレデリック・ラ	『グローバル化と社会的排除—貧困と社会問題への新しいアプローチ』	昭和堂	2005